

「劇場におけるアウトリーチ～ダンス・プログラムの可能性～」

講演

「The Place におけるアウトリーチ プロジェクト
—社会におけるコンテンポラリーダンスの役割と可能性を探る—」

あべあか音

(ダンサー・振付家)

ダンスを通じてどのようなプロジェクトが行われているか、ロンドンにおける事例を紹介したいと思います。私はロンドンコンテンポラリーダンススクールでのトレーニングを経て13年間The PlaceのClasses and Coursesで振付家、ダンス教師として働いてきました。ロンドンを活動拠点としていますが、2000年以降は毎年夏に、名古屋の舞工房というメンバー資格30歳以上のダンスカンパニーの振付家として中部地区のダンス・コミュニティに接する機会を得てきました。この間に私もイギリスで様々なアウトリーチ・プロジェクトに関わってきましたが、工夫次第でダンスの持つ可能性と多様性が広がることを実感してきました。劇場が積極的に街に出て行くこと、働きかけることは社会の民度を高める為の一つの方法だと思います。それがイギリスではどのように行われているのか、The Placeでの私の経験とスタッフのインタビューを通じて具体例を報告したいと思います。

The Placeはロンドンの中心部に位置するダンスセンターです。1969年にRobin Howardによって設立され、以来40年以上にわたってイギリスはもとよりヨーロッパのコンテンポラリーダンス・シーンを牽引する役割を果たしてきました。現在はアマチュアからプロフェッショナルまで、また子どもから大人までヨーロッパ圏のみならずワールドワイドにダンスを愛する人たちのパワーハウスとして機能しています。施設には、客席数が300のRobin Howard Theatre他、大小合わせて11のダンススタジオがあります。そして、5つの主要部門がその運営に当たっています。まず始めに、ヨーロッパ圏をはじめ世界中から集まってきた学生がコンテンポラリーダンスを学ぶ、(1)「London Contemporary Dance School」。そして、The Placeに拠点を置き、パフォーマンス活動のほかにアウトリーチ・プロジェクトとして地方の学校や諸団体を対象にワークショップなども行う(2)「Richard Alston Dance Company」。パフォーマンス・アーツに関わる専門家に対してのサポートを主に行っている(3)

「Theatre and Artist Development」。それから、生涯教育という観点で子どもから大人までを対象に様々な機会を提供する(4)「Recreational and Prevocational Dance」。最後にダンス学習教材の開発とChanging Lives及びQOLの向上を目指したプログラムを提供する(5)「Creative Teaching and Learning」と、5つの部署がそれぞれの専門分野に特化したプロジェクトを打ち出し運営を行っています。

では、具体的にどのようなプロジェクトがおこなわれているのでしょうか。「Recreational and Prevocational Dance」が担当するプログラムからご紹介したいと思います。イギリス政府の教育部門の助成による「CAT (Centre for Advanced Training)」は10-18歳の子ども達を対象としたダンサーの育成を支援するプログラムです。

内容は、コンテンポラリーダンス、バレエ等のダンス・テクニクに加えパフォーマンス・スタディ、骨格チェックやボディーコンディショニング、トレーニングの個別指導、観劇などとなっています。ここで育った多くの修了生が著名なダンススクールへと進学しプロの道へと進んでいます。また、「CAT」の受講料は保護者の所得によっては援助を受けられるシステムが導入されており、これにより広く低所得者層の子ども達もダンスの専門的トレーニングを受けることができるようになりました。同時に早い時期にダンスをアートとして学ぶ機会が増えたので、英国の若年層の身体的・意識的レベルが上がってきたように感じます。

それから、成人向けには「Classes and Courses」でイブニングクラスを提供しています。グラハム、カニングハム、リモン、リリースなどの様々なスタイルのコンテンポラリーダンス、バレエ、ピラティス、コンタクトインプロ、ジャズダンスやパフォーマンスプロジェクトなど受講者がレベルや好み、スタイルに合わせて選択が可能になっています。ハイ・スタンダードな教師陣に加え、経験豊富なミュージシャンによるライブ演奏付きのクラスをフレンドリーな雰囲気の中で楽しめるようになっています。

The Placeの5つの部門の中で一番

広く対外的にアウトリーチ・プロジェクトを進めているのが「Creative Teaching and Learning」です。ここではダンス教育におけるダンス・アンド・ムーブメントを専門的に研究し、その成果を共有する活動を行っています。具体的には「ダンス学習教材の開発」、そして「Changing Lives及びQOLの向上」を目指したプログラムの2本の柱が主軸となっています。

1本目の柱、「ダンス学習教材の開発」の具体例として、「Dance Quest」が挙げられます。このプロジェクトはチャールズ皇太子が主催するThe Prince's Foundation for Children & the Artsの支援を受け、ロンドンをはじめとするイギリスの4都市に位置する劇場が地元の学校とリンクして11歳から13歳までの子ども達にダンスをアートとして楽しむ機会を提供するものです。The Placeではこのプロジェクトの一環として、小中学校の義務教育課程に従事する体育教員のための「Dance Quest Book for Teachers」と言う教本を発行しました。内容は、ウォーミングアップから動きの創作のヒント、作品を分析評価する時のアドバイスなど、ダンス未経験のダンス教師でもクリエイティブ・ダンスのクラスが指導できるように分かりやすく書かれています。このテキストはダウンロードが可能となっています。

もう1本の柱、「Changing Lives」、いわゆる社会的弱者に属する人々に焦点を当てダンスを媒体とした社会貢献の道筋を切り開くというものです。The Placeでは「Clean Break Theatre Company」というロンドンにある女性の更生をサポートする支援団体と提携して、犯罪に関わった経験のある、あるいはアルコールやドラッグ依存症の女性を対象に演劇、ダンス、英語、メンタルヘルスケアに至るまでの教育プログラムを運営しています。また「Rosetta Life」と提携し、社会の中で取り残されがちな高齢者や障害者との文化活動を積極的に一般公開して当事者のQOLの向上と世間の高齢者や障害者に対する意識を変えべく活動しています。ある神経外科病院の脳卒中患者とのダンスワークショップでは、イメージから動きを創造していく過程というのが脳卒中のリハビリテーションにどのように導入できるのか、またそれは患者の体にどのような効果をもたらすのか、ダンサーだけではなくアレキサンダーテクニクのスペシャリストや神経科の医師らとミーティングを重ねて試行錯誤しながらプロジェクトを進めています。この模様は15分間のショートフィルムになっており、Rosetta Lifeのサイトから見るすることができます。

さて、次に「The Water Project」です。この企画は2002年にホームレスのチャリティ団体Crisis Skylight Londonと提携して18ヶ月間にわ

たって行われました。ホームレスを対象としてアルコールやドラッグの服用は厳禁という条件でクリエイティブ・ダンスやコンテンポラリーダンス、そして創作ライティングなどのアートワークのクラスを週1回のペースで行い、クラス後に軽食を提供するという内容でした。

担当者によると、当初は食事だけが目当てという参加者も少なくなく、継続させるためのモチベーションを上げるのにかなり苦労したということです。根気よく参加し続けたメンバーには最後に劇場でのダンス鑑賞というプレゼントがあり、その日は身だしなみにも気を使い洋服を新調してきた参加者もいたそうです。劇場に出掛けるという彼らにとっては非日常的な体験が彼らの社会復帰に対する意欲を大きく掻き立てたそうです。現在では社交ダンスの講師をThe Placeが派遣してプロジェクトが続けられています。

The Placeでは、創設以来コンテンポラリーダンスの発展のために様々な活動を行ってきました。そして、ダンスが単に「踊るもの・鑑賞するもの」にとどまらず、コミュニティ・ダンスという分野で社会貢献のツールになり得るということを証明してきました。

今回紹介した事例の他にも、難民、移民の子どもたちを多く抱える学校を支援するプロジェクトやダンスを導入した科学や数学の教育プログラムなど、現在進行形で様々な工夫研究がなされています。このように積極的にプロジェクトを打ち出すことによってダンサーやダンス教師、振付家の雇用の幅も広がります。そして、それらを記録して一般に公開していく機会を作ることも賛同者を広げるために重要だと思えます。

最後になりましたが、劇場が街へ出ていくこと、それは文化が今まで届かなかった領域へも広がりを見せ、人々の芸術に対する意識の向上につながってゆくものだと思います。The Placeの創始者Robin Howardは「ダンスは社会を発展させる原動力である」と固く信じていました。彼が信じていたとおり、イギリス社会における「ダンス」は今後も様々な形を変えて、その可能性を広げていくことと思います。